

“共に汗し、共に笑い、共に語ろう”

自分は何のために働いているのか・・・理念とは言い換えれば、どのように働くか、幸せになるかの指針であり、職員一人ひとりが理想を掲げ、法人の理念を共有する必要がある。

私たちは常に「福祉事業、支援は障害者を幸せにできているか？」と問われている。

各事業は生活に必要な福祉サービスを提供することが仕事であり、それにより利用者が幸せになったかどうかまで責任を持っているか・・・障害者を幸せにできない福祉サービス、幸せにすることに関心のない福祉事業所に公的財源を投入する妥当性はないとの厳しい声もある。あらためて事業運営、支援のベクトルを見直しながらの事業運営が求められる。

また、社会福祉法人の責務として地域課題にも目を向け、連携・協働に基づいて「地域への貢献」を目標として取り組みをすすめる。

《 童里夢の基本方針 》 ※法人の全ての活動、運営・組織の在り方

- 「社会に存在する何人とも認め合い、助け合い、許し合い、共に生きていきます」
- 「地域社会とのつながりを大切にして、地域共同ネットワークづくりのために努力します」
- 「障害者一人ひとりが、主体的な人生を送るために自律の支援を追求します」
- 「障害者の社会参加に必要な情報を収集し、障害者理解に必要な情報を発信します」
- 「障害者に必要なサービスを継続的に提供できるように、時代に合わせて変化し続けます」

## 1. 法人運営

社会福祉法人童里夢は、障害のある子どもの親たちが協力して立ち上げた地域の期待と共に本人、家族の思いの籠った法人である。“共に汗し、共に笑い、共に語ろう”の基本理念のもと、働く場所づくりからスタートし、余暇活動支援、地域生活支援へと事業を拡げてきた。社会福祉を取り巻く状況（法律・制度、ニーズ、社会環境、他）も大きく変化し、ガバナンス強化と透明性の確保への取組み、主体性を持った自立的な経営と共に、社会福祉法人の在り方、法人経営の在り方が問われている。

法人設立20年を迎えるに当たり、童里夢も大きな変革期を迎えている。あらためて基本理念の確認と共に、事業運営体制の評価、見直しを通して、次の10年を進むための足場を固め、進むべき方向「中・長期計画の作成」を定め、優先順位をつけての具体的取組みを適時すすめる。

良質な福祉サービスの提供と広報戦略は両輪と理解し、法人内での情報共有のためのしくみ（経営会議報（仮）の発行）づくりと共に地域社会に向けての情報発信力を強化（ツールの活用、内容の取捨選択）する。

また、地域における公益的な取組みを拡充・発展させることで、地域社会との連携を強化し、地域における包括的な支援体制の確立（地域共生社会の実現）を模索する。

福祉サービスの質の向上、不適切支援の根絶、ハラスメントのない職場づくりを重点課題として取り組むことをあらためて表明し、新たなスタートラインに立つことを宣言する。

## 2. 重点課題

「中・長期計画」の作成に注力し、個別課題・目標は中・長期計画の中で優先順位をつけ令和2年度の取組みについても明確化する。

将来像と当面の課題を整理しながら、職員一人ひとりの理解・協力、参画のもと将来を見据えた社会福祉法人童里夢の経営基盤の強化に向けた指針とし、第3ステージ（次の10年間）の戦略を下記に則り明確にする。 ※『中・長期計画（案）【要約版】』へ

### I. 理念実現を目指す事業展開

#### 1) 理念の実現

今後10年間の法人幹部新体制を構築する

理念・基本方針の周知 法人化30周年に向けた目標

#### 2) 組織統治の確立

業務執行機関の強化 責任、権限の明確化

#### 3) 財務計画

財務分析と計画策定 人件費率の目標化

#### 4) 既存事業の改善・計画

既存事業の評価、

#### 5) 権利擁護・コンプライアンス

意思決定を最重視する 虐待防止、不適切支援対策 ハラスメント対策

#### 6) サービスの質の向上

支援レベル向上の目標の明確化 第三者評価等の活用

#### 7) 業務マニュアル

事業運営マニュアル（規程類） 職務・職責マニュアル 利用者支援マニュアル

#### 8) リスクマネジメント

苦情受付、解決、公表の実施 BCPの運用

### II. 福祉人材に対する視点

#### 1) 人材育成・キャリアパス

福祉人材マネジメント 職務・職責の明確化 目標管理・人事評価制度の導入

新人職員育成 中間管理職・管理職育成

#### 2) 人材確保

期待する職員像 人材確保の対策

#### 3) 人材定着・処遇改善

給与規程・処遇体系の再構築 ワークライフバランスの推進 職場環境の改善

### Ⅲ. 新ステージへの挑戦

#### 1) 新事業展開

新規事業の可能性の追求 新規事業計画の作成

### Ⅳ. 地域社会に対する貢献

#### 1) 地域における公益的な取組みの推進 ボランティアの活用・福祉体験等への取組み 多様な地域ニーズ把握 公益的取組み実施 地域共同ネットワーク

#### 2) 情報収集、発信

情報発信、情報提供

#### 3) 在宅生活への支援、家族等支援

権利擁護 相談支援